

コロナパンデミック前後における香港の少子化

ー人口移動と出生性比の変化ー

Lowest-low Fertility in Hong Kong SAR Before and After

COVID-19 Pandemic: changes in population movements and sex ratio at birth

梁 凌詩ナンシー (日本体育大学)

LEUNG Ling Sze Nancy (Nippon Sport Science University)

香港の合計特殊出生率は、コロナパンデミック後に最低水準の 0.7 (2022 年) まで低下した。多くのコロナパンデミックと出生率低下に関する先行研究では、出生率の低下要因はコロナパンデミックによる経済不安であるとされているが、香港の出生率の低下には経済的要因に加えて、行動制限も大きな要因であることが示唆されている。

香港の出生数は、単に香港人の間で生まれた子どもだけではなく、香港人と中国人の愛間で生まれた子どもも含まれる。また、2013 年まで香港の永住権を目指すために、中国人夫婦がわざわざ香港で子どもを産むという「越境出産」も行われていた。越境出産から生まれた子どもの大部分が男児であったため、香港の出生性比は一時的に 110 を超えた。2013 年以降、香港への入国が妊娠した中国人女性に制限されたことで、越境出産はほとんどなくなったが、香港の出生性は 107-109 の高い水準に留まっている。高い出生性比は男児選好の文化があることを示唆しているが、香港家族計画指導会が 2007 年から 2022 年まで実施した調査によると、香港では男児選好の傾向は見られなかった。

コロナパンデミック中 (2021 年)、香港の出生数が大幅に減少すると同時に、出生性比も大幅に低下した。2020 年のコロナパンデミック発生時点では、香港の出生性比が 109.2 と高い水準にあったが、2021 年には急速に 105.6 まで低下した。しかし、2022 年にコロナパンデミックが終息した時点で、出生性比は再び 107.0 まで上昇した。この変化は香港の人口移動と密接に関連していると考えられる。香港のコロナ対策において、一時的に出入国が停止された時期があった。そのため、香港人と中国人の結婚が停止され、結婚してから 2 年未満の夫婦が香港と中国に分断された。このように、コロナパンデミック中に香港人と中国人夫婦の出生が大幅に減少したと考えられる。実際に、出生登録データから得られる結果では、香港人夫婦から生まれた子どもの出生性比は 105-106 の水準に留まっているが、香港人と中国人夫婦から生まれた子どもの出生性比は 110 以上となっている。つまり、香港の出生性比が高い理由は香港人と中国人夫婦の間で男児選好の傾向があることと言える。また、パンデミック中には、中国人向けの高度人材などの移民政策がほとんど停止されたため、中国からの移住者やその家族の出生も大幅に減少したと考えられる。出生登録データからは、近年、香港人夫婦から生まれた子どもの数が全体の出生数の半分しか占めていないことがわかった。中国出身者の増加は男児選好の文化を持つ若い人口の増加に関連しており、香港の出生性比が高い水準に留まっている原因と考えられる。